

ゆたあ〜と

ありがとうございます ございました

小国公立病院 坂本 英世



私は、令和3年3月31日で定年退職いたします。本当に長い間お世話になりました。

小国には3回勤務いたしました。1回目は昭和55年1月で非常に寒かった思い出しかありません。官舎は古く隙間風が吹いていて朝になると水道管が破裂して、2回目は昭和62年1月から平成元年7月まで勤務、島井千里先生が院長で後半は河津俊彦先生が院長に、同時に私も副院長に就任いたしました。

当時は地域医療という言葉もまだ無かったと思います。河津先生はじめ医局の先生方も皆若く、よく働き・よく遊び・よく飲んでいました。

強く印象に残ったのは事務職員の方が教えてくれた河津寅雄前町長の言葉でした。

『一に学校、二に病院、役場は最後』

発行
小国公立病院
0967-46-3111
おぐに老人保健施設
0967-46-6111
訪問看護ステーション
0967-46-6050

44号
令和3年3月

小国公立病院
HPアドレス
<http://www.ogunihp.or.jp/bind/>



町の施設を充実させる順位付けだと理解しました。友人が小国へ遊びに来て町を案内する時、最後には必ず町役場を案内していました。小国町と同規模の町では町の庁舎が、その町で一・二を争うりっぱな建物である事が普通であったその当時、この今にも倒れそうな古い建物が私の自慢の一つでした。

平成8年の12月医局長から突然電話があり、「先生、小国公立病院勤務の話相談して良いですか？」と聞かれました。すぐ頭に浮かんだのは「一に学校、二に病院、役場は最後」この言葉でした。

一応、家に帰って家内に相談しました。9歳・7歳・5歳と3人の男の子がいましたので少し心配でしたが「行きたいんでしょう良いですよ」との返事で、医局長へその日の内に承諾の電話をかけました。

平成9年1月から現在までが3回目の勤務となります。前回勤務の時に手術した患者さん達も皆さんお元気でしたが、それなりに高齢になっておられました。数人の方から「俺（私）が死ぬまでは居らんといかんですよ」と頼まれましたが、その約束も殆ど果たす事が出来たと思っています。

小国町の医療の特徴はたくさんありますが、一番の特徴は町と病院との距離感が無い事です。病院と町が一心同体と言っても過言では無いと思います。

院長に就任してからの11年間はあらゆる職種の人材不足に悩まされましたが、その度に町長、病院議会議員、職員、職員OB、住民の



これからの大変な時期を堀江英親先生と片岡恵一郎先生に託して去りますが、この二人が協力して事にあたれば、必ず地

皆様の手伝っていただき病院の機能・体制を維持できました。今後はこれを維持していくのではなく、時代の変化・人口の推移に合わせて病院の体制と機能を改善していかねければなりません。

域医療のモデルとなるような町が出来るかと信じています。26年と1ヶ月本当にお世話になりました。ありがとうございました。



新型コロナウイルス(COVID-19)に関する 検体検査について

検査科(兼 ICT: 感染制御チーム) 有住 将尚 臨床検査技師

新型コロナウイルスが確認されて1年以上が経過しました。この期間に全世界で様々な対応が採られ、恐らくこの記事が掲載される頃にはワクチン接種が開始されているかと思えます。検体検査についても感染症発覚当初から様々な変更がありましたので、新型コロナウイルスの検体検査についてご説明します。(一部専門的な表現は、わかりやすい様に一般的な使用方法で用いております)

●核酸検出検査

この検査はウイルスの遺伝子を検出する検査で、遺伝子検査とも核酸増幅検査とも言います。皆様が一番耳にした「PCR検査」はこの検査で、他にも「LAMP法」「TMA法」と呼ばれる検査もこの検査です。感度が良いのが特徴ですが、特殊な設備や手技が必要になりますので、費用や検査時間が多く必要になります。

●抗原(定量法・定性法)検査

新型コロナウイルスの特異な蛋白が存在するかを検出する検査になります。

定量法は上記の核酸検出検査と同等の性能がありますので、無症状者への検査や発症後10日以上経過している有症者への検査に用いる事ができ、空港等での検疫でも用いられているようです。しかしこの検査も核酸検出検査と同様に特殊な設備が必要です。

定性法も蛋白の存在を確認する検査ですが、簡易的でコンパクトなキットがあれば検査ができますので小規模の施設でも検査可能です。しかし核酸検出検査や定量法と比較すると、感度が劣ります。



※抗体検査

この検査は新型コロナウイルスに感染したことがあるかどうかを調べる検査です。

この検査で「陽性」であった場合は「今までに感染したことがある」ですので「今感染しているか」

は不明です。

ただし、この抗体とは感染症への抵抗力の指標ともなりますので今後の研究次第ではワクチン効果の指標になるかもしれません。

各検査方法の特徴

		核酸検出検査(PCR等)			抗原検査 定量法			抗原検査 定性法		
		鼻咽頭	鼻腔	唾液	鼻咽頭	鼻腔	唾液	鼻咽頭	鼻腔	唾液
有症状者	発症9日目以内	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	発症10日目以降	○	○	※2	○	○	-	△※1	△※1	×
無症状者		○	※2	○	○	※2	○	※2	※2	-

※1使用可能だが、陰性の場合は臨床像に応じて核酸検出検査や抗原検査定量法を推奨

※2推奨されない

今回は検体検査のご説明をさせていただきました。他にもCTなど画像検査で肺炎の有無を確認する事もございます。

感染症の定義は「微生物が体内に侵入して増加し発症する」です。例えばPCR検査では死滅したウイルスでも遺伝子が残っていれば「陽性」となり、感染していてもウイルス量や抗原量が検査時に微量であれば「陰性」となります。検査結果のとらわれず、これからも感染症対策をとった行動をしていただけると幸いです。

※今回は「新型コロナウイルス感染症 診療の手引き 第4.1版」「新型コロナウイルス感染症 病原体検査の指針 第3版」や、他施設とのカンファレンス等で得た情報を基に執筆させていただきました。情報共有や研究が進む事で、状況は刻一刻と変化します。今回の内容も今後は変わる可能性もございますので、ご理解のほどをよろしくお願ひします。

(2021年2月15日現在)



住民の方から、車椅子を1台、寄付していただきました。

病院内・老健内でも車椅子の需要が増えつつあります。使用させていただきます。ありがとうございました。

車椅子を寄付していただきました

先月号(43号)の間違え探しの答えです。

今回は、少々難しかったでしょうか…



次号のゆたあ〜と新聞は、令和3年5月中旬に発行予定です。お楽しみに〜

住民の方から 素敵なプレゼントを頂きました



毎日、医療、看護、介護業務に追われていますが、「応援してくださっている方がいるんだな」と、素敵なかごやバックを見ると、温かい気持ちになります。本当にありがとうございます。

(職員一同)



2月中旬のとても寒い日。「住民の方からお届け物です」と連絡があり、「コロナ渦の中、頑張っている医療従事者の皆さんに、何かお役に立てばと思って作りました」という心温まるお言葉とともに、クラフトバンドを使用した、とても素敵な手作りのカゴや手提げバックをたくさん届けて頂きました。

職員への声かけをしたところ、「家の小物入れに使う!!」「コンビニに行くときに使おうかな」「病棟の小物入れに」「老健入所者の製作活動のお道具入れに使います」と、みんな笑顔で選んでいきました。そして、あっという間に完売です。

